

寺山久美子先生への謝辞

この度、15年の長きにわたり副学長として本学に多大な貢献をいただいていた寺山久美子先生がご勇退されることになった。本学の教職員、学生、さらに昨年度からは大学院生を含めて、熱心なご指導いただき、本学を支えていただいたことに心からの感謝を申し上げたい。先生のご決断をお聞きした時には大変心細い思いを感じたのであるが、今は先生の生き方を改めて辿りつつ、教えをいただいていた者たちもいつかは自立すべきであるとの先生からのメッセージであらうかと思っている。

寺山先生は、東京大学をご卒業後、看護師・保健婦・肢体不自由児職能訓練士として臨床経験を積まれたが、新たに法制化された理学療法士および作業療法士法の特例措置により、1968年（第3回国家試験）に作業療法士になられた。まさにわが国のリハビリテーションと作業療法の礎を創成されたパイオニアである。1991年から2001年まで日本作業療法士協会の第三代会長をお勤めになり、作業療法士の活動の場を作り作業療法士の社会的認知に尽力されただけでなく、60年余りリハビリテーション専門職の養成に貢献されてきた。このようなご貢献に対して、寺山久美子先生は作業療法士として初めて旭日小綬章を受章された。

本学は2009年から約15年間にわたり副学長としてそのお力をお借りしてきた。ご高齢にもかかわらず、毎週東京から泊りがけでお出かけいただく先生のお姿は、作業療法領域の実践者・研究者・教育者としてだけでなく、人間の生き方として全ての人から尊敬し敬愛されていた。昨年度の大学院開設にあたっては、「やっと先代理事長との約束をはたせた」と大変喜んでおられ、大学院生の教育に時間を惜しまず情熱を注いでおられた。昨年、人生を共に歩んでこられた寺山心一翁が旅立たれたお哀しみの中にあっても本学のためにご尽力いただいた。普通の人にはできないことであろう。小生は本学に着任して以来、寺山先生から多くのことを学ばせていただいたが、本学の学生は寺山先生の人生や存在そのものから多くのことを学ばせていただく機会をいただいたものと思っている。

寺山先生には、これからもいろいろと教えを請いご指導を頂戴したいと思いつつも、大学院完成年度をもってご勇退を決断された寺山先生に、ご心配をかけないように本学の発展を目指してさらなる努力を重ねていきたいと思う。寺山久美子先生のご健勝を祈念して、先生への感謝の辞としたい。

大阪河崎リハビリテーション大学学長 武田雅俊

寺山久美子先生 略歴



| | |
|------------|---|
| 1962年 | 東京大学医学部衛生看護学科卒業、看護師・保健婦免許登録 |
| 1962～1967年 | 社会福祉法人日本肢体不自由児協会整肢療護園厚生棟勤務 |
| 1967～1968年 | 東京大学附属病院リハビリテーション部勤務 |
| 1968年 | 作業療法士免許登録、日本作業療法士協会に入会 |
| 1968～1985年 | 東京都心身障害者福祉センター勤務、肢体不自由科長 |
| 1971～1979年 | 日本作業療法士協会 常務理事 |
| 1972年 | 医学博士（東京大学） |
| 1979～1991年 | 社団法人日本作業療法士協会 副会長 |
| 1986～2002年 | 東京都立医療技術短期大学（後の東京都立保健科学大学、東京都立大学）教授、作業療法学科長 |
| 1991～2001年 | 社団法人日本作業療法士協会 会長 |
| 2002年～現在 | 東京都立大学 名誉教授 |
| 2002～2009年 | 帝京平成大学 教授、健康メディカル部長、作業療法学科長 |
| 2009年～現在 | 社団法人日本作業療法士協会 名誉会員 |
| 2021年 | 旭日小綬章 受章 |
| 2009～2024年 | 大阪河崎リハビリテーション大学 教授、副学長 |